

# 令和4年度 自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

A：よい B：おおむねよい C：やや不十分（検討を要する） D：不十分（改善を要する）

評価領域	取組状況	評価
1：教育・保育目標について （7観点評価）	夏休みまでを前期、冬休みまでを後期として年2回、職員による自己評価と協議を行ってきたことにより、教育目標や経営の重点について全職員が共通理解し、目指す子どもの姿と課題を具体化しながら教育・保育に取り組むことができた。	B <sup>o</sup>
2：教育週数と時間、行事について （6観点評価）	園児が新型コロナウイルスに感染した際、健康観察期間を設ける必要から園閉鎖や学年閉鎖等の対応を行ってきたが、教育週数39週を確保し、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」、「教育・保育課程」に計画していた教育・保育内容を全て実施することができた。また、知見を生かした新型コロナウイルスへの感染予防対策を行いながら実施方法を工夫することにより、園内外の行事や保護者参観を全て実施することができただけでなく、「秋まつり」や男鹿水族館への園外保育などの新たな取組を行うことができた。 コロナ禍での教育・保育には、感染予防対策のためにより多くの時間と労力を要するようになった。今後、保育者の仕事の効率化や精選、職員数の充実を図っていかなければならない。	A
3：学年・学級経営について （12観点評価）	あいさつや健康観察、園児をほめること、チームによる教育・保育については、ほとんどの職員がA評価であった。加えて、肯定的評価（A+B）が100%であっても、子どもの内面や行動の背景にある要因をもっと理解したい、特別な配慮を要する子どもの「指導計画」や「支援計画」の手立てをもっと具体化していきたいという前向きな意見が出された。	A
4：教育・保育の在り方と保育記録について （10観点評価）	10観点中、9観点は肯定的評価が100%であったが、その中で、保育の記録と情報を共有する時間の確保に苦慮しているという意見があった。記録と話し合いの時間と位置付けている降園後の70分間を有効に活用しながら、園児が主体的に関わりたくなるような環境構成や教材・教具の工夫に取り組んでいく必要がある。 肯定的評価が89%にとどまったのは、異年齢交流である。コロナ禍で様々な制限がある中、工夫しながら実践してきたことがうかがわれる。対策を講じながら可能な交流の実施に取り組んでいきたい。	B <sup>o</sup>
5：組織・運営について （7観点評価）	協働により全職員が園の運営にかかわり、教育・保育の質の向上に努めることができた。昨年度からの課題である各種会議の適切かつ効率的な開催については、肯定的評価が前期80%から後期94%へと向上したが、経験の少ない保育者や異なる意見を聞くよい機会でもあることから、協議が必要な内容と確認だけでよい内容を明確にしていくことで、より一層の効率化を図りたい。	B <sup>o</sup>

評価領域	取組状況	評価
<p>6：保健・安全指導と安全管理について (9 観点評価)</p>	<p>マスクの着用や手洗い、手指消毒等の保健指導や常時換気などの感染予防対策とホールへの大型空気清浄機、各部屋へのサーキュレーター、二酸化炭素濃度計、熱中症予防のための園庭へのミスト設備の導入などにより、2 観点が 90 %のA評価となった。けがや事故発生時の報告・連絡・相談についても 90 %のA評価であった。</p> <p>園内でのヒヤリハット記入簿を見開きで置いておくことで常に最新の情報を共有できたこと、様々な状況を想定しての避難訓練や臨港署に協力要請しての不審者対応訓練、エピペンや AED の研修が効果的であったという意見が出された。</p>	A
<p>7：園内外の研究・研修について (6 観点評価)</p>	<p>園内研修においても、密を避けるために保育を見合うことが難しい状況であったが、教育実習生への指導が子どもたちの育ちと自らの指導を振り返るよい機会となった。今後、若い保育者の課題や疑問に応える短い協議を積み重ねていくことも有効であると考えている。また、来年度は市のブロック研修の会場園となっている。全保育者の協働により研修を深めていきたい。</p> <p>園外研修の多くがオンライン研修となったが、全ての保育者が意欲的に参加することができた。</p>	B
<p>8：幼保小との連携について (4 観点評価)</p>	<p>コロナ禍により、今年度も小学校の体験入学、保育園との交流等が全て中止となった。一方、感染予防対策をしての小学校の授業参観や教員間の情報交換会は行うことができた。また、近隣小学校と緊急メール配信を共有する取組を行った。今後も感染状況の推移を見ながら連携の充実を図っていきたい。</p>	B
<p>9：家庭・地域社会との連携について (7 観点評価)</p>	<p>保護者への「利用者アンケート」では、全 15 項目全てにおいて 100 %の肯定的評価であった。91 %の保護者が「子どもがこの園に入園して満足している」に「とてもそう思う」と回答し、37 名の方からは温かい応援メッセージをいただいた。このことは保育者の日々の連携の積み重ねによるものと考えている。</p> <p>中央教育事務所や療育センターなどの専門機関との連携を図ってきたことにより、特別な配慮を要する子どもへの支援を充実させることができた。</p> <p>子育て支援として行っている園開放では、少人数であることで温かく落ち着いた雰囲気の中で交流ができた。令和 6 年度の未満児保育の開始に向けて、乳児の保護者が参加できる内容について検討していく必要がある。</p> <p>今年度は 3 年ぶりに子ども曳山の町内巡行を行い、地域文化に親しむとともに、地域の方々から支えられていることを実感し地域を大切に思う心を育てるよい経験をすることができた。今後は地域の人たちと交流する園外活動を増やし、地域の方々にも共に育てていくという意識を醸成していきたい。</p>	A